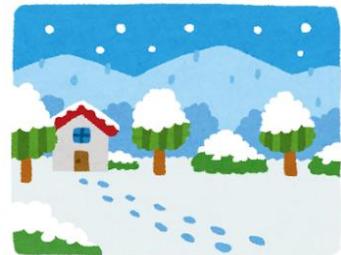




ムーミンを知っていますか？



今月、埼玉県飯能市にムーミンのテーマパークがオープンするそうです。ムーミンというと幼い子供向け絵本やアニメのイメージでしょうか。実は、数多くのキャラクターの個性的な姿をとおして、心の内面に深く触れる描写も多く、中学生の皆さんが読んでも共感できる部分が多々あると思います。登場人物のセリフと、原作者トーヴェ・ヤンソンの一生をたどりながら、ムーミンの世界をちょっとのぞいてみませんか。

「・・・いっとくけど、闘うことができなけりゃ、永遠に、自分の顔なんて、持てないのよ。」 by リトルミイ



『ムーミンのふしぎ』講談社
原作 トーヴェ・ヤンソン
文 松田素子
絵 スタジオメルファン

ムーミンは不思議に思います。海はどうして遠くから見ると青いの、海水を手にくすぐると透明なの、、、？

「ほしいと思ったら、ぼくならまず、それをとにかくじっと見るね。そして、それを大切に頭の中へしまおうんだ。そうすればそいつは無くなったりしないし、壊れたりもしない。持ちすぎて重くなることもない。色がなくなることもない。」 by スナフキン

原作者ってどんな人？

原作者のトーヴェ・ヤンソンは1914年フィンランド生まれの女性。彫刻家の父と挿絵画家の母、二人の弟の5人家族でした。一家はフィンランドでは少数派のスウェーデン語の使用者だったということです。

学校を中退

早くから絵に親しみ13歳のころには雑誌に挿絵が掲載されます。一方、自由な家風で育ったせいか、厳格な学校になじめず、勉強も嫌いだったそう。15歳で学校を中退します。

画家を目指す！

工芸専門学校に入学するも、やはり周囲にはなじめず、、、。しかし16歳の時に、自分の天職は芸術家であると日記に記し、その後ヨーロッパ各地で修行に励みます。



第一作は売れず、、、

雑誌の挿絵画家としての仕事の後、31歳でムーミン第一作となる『小さなトロールと大きな洪水』を発表。しかし売れ行きが悪く、早々に絶版に。

イギリスで人気に火が！

36歳で発表した第3作『楽しいムーミン一家』がヒットします。4年後にはロンドンの夕刊紙でコミックスが連載され、人気世界的なものに。一方で多忙な日々を追われ悩むこともあったようです。



ムーミン終了、次のステージへ

56歳の時、人生に多大な影響を与えた母の死をきっかけとして、ムーミンの創作を終了、その後は小説家の道へ進みます。トーヴェは一生を通して、風刺挿絵画家、画家、児童文学作家、絵本作家、漫画家、小説家と多彩な仕事に携わりますが、どれも全力で取り組んでいたということです。

ムーミンの物語には、芸術一家、言語的少数派といった生い立ちや、人生の節目節目における葛藤などが少なからず反映しているといわれます。それらをふまえると、作品の世界がより味わい深いものになるでしょう。

「大きな旅立ちというものは、書物の、第一行目の文章のように、重要なものなのだよ。その一行が、この一瞬が、すべてを決定づけるんだ」 by ムーミンパパ

参考

『ムーミンを生んだ芸術家 トーヴェ・ヤンソン』 新潮社
『ムーミンパパ海へ行く』 講談社
『ムーミン谷の名言集』 講談社

